

佳作

## うしゅめつがわり

岡山県岡山市立津島小学校四年 川島 侑珠

夏休みのある午後、お母さんがつかれたと言って、横になって休んでいました。すると、お父さんから、四十度の高熱が出たので帰るといふ電話がかかってきました。いつもよりすごくしんどそうな声だったので、お父さんが帰ってきたらすぐ休めるように妹と私でじゅんびをしました。お父さんの部屋のエアコンをつけ、パジャマと水とう、氷のうを用意しました。氷のうの場所が分からず、探しまわりました。お母さんも体温をはかってみると、三十八度ありました。私はおどろいて、ゆっくり休めるように二階からふとんを下ろし、水とうを用意しました。二階からふとんを下ろすのは大変で妹と二人で声をかけあってなんとか運ぶことができました。先に用意しておいたので、お父さんはすぐねることができました。

お母さんとお父さんがねている間、できるだけし

はんを作らないとおなかはずくし、おふるはわかさないと入れません。さらに、ごはんを食べたら、お皿洗いの片付けがあるし、おふるをわかしたらそうじをしないといけません。する順序も上手に考えないとスムーズにはいきません。私は、ふだん気持ちよくすごせるように、お母さんが働いてくれていることに気づき感動しました。そして、毎日全てをしてくれているお母さんにとても感しゃしました。でも、一人でするのは大変だと分かったので、これからは、いっしょにきょう力して取り組みたいです。まず、ごはんを作るお手伝いからはじめます。

ずかにすぐすために絵を書き始めました。絵を書いていると、せんとく物がほしたまなことに気づき、取りこんでたみ、かたづけました。妹がおなか空いたと言いだしたので、夕食を作ることにしました。とりあえず、お米をあらってたきました。次に、れいぞう庫を開けて中を見てみたけれど、メニューが思い浮かばなかったのでお母さんに聞きに行きました。そして、初めてグリルで魚を焼いてみました。その日の夕食は、お茶づけとなつとうと焼き魚でどうにかおなかをふくませました。もうくたくただったので、おふるをわかさずにシャワーだけをおびて、あつという間にねむりに落ちました。次の日も妹ときょう力して朝食を作り、せんとくをしました。お昼はおべん当を買いに行きました。夕方からお母さんの体調が少しづつよくなってきたので、いっしょに夕食を作りました。

今回家事をやってみて、私はすごく大変だと思いました。やらないといけないことが次々とあるからです。遊びはしなくても、別にこまることはありません。だから、自分のしたいことだけすればよいです。しかし、家事はやらないとすぐこまったことになります。気持ちよく生活できなくなるのです。例えば、買い物に行かないとごはんは作れないし、ご